西京極

令和8年10月
京都市立西京極小学校
校長　齋藤　直子

西京極小学校ＨＰ

令和8年度　前期　振り返りアンケート　結果のお知らせ

学校教育目標　　いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く　子どもの育成

・事実と知識を大切にし、探究する子ども　　・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
・人とのつながりを大切にする子ども　　・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

晩秋の折、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育推進のためにご理解･ご協力をいただきありがとうございます。

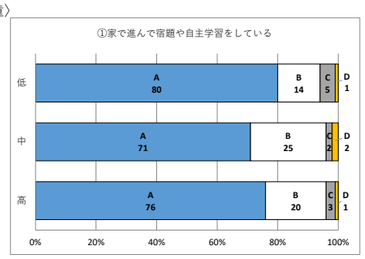
さて、今年度7月に実施しました前期振り返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

◇　低…低学年(1･2年生)　中…中学年(3･4年生)　高…高学年(5･6年生)

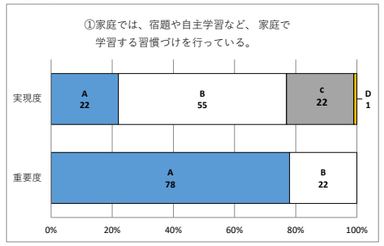
1　確かな学力

【家庭での自主学習】

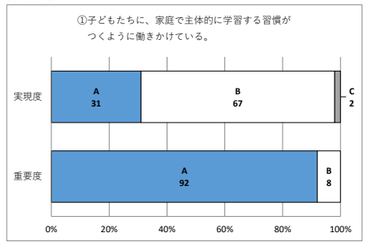
〈児童〉



〈保護者〉

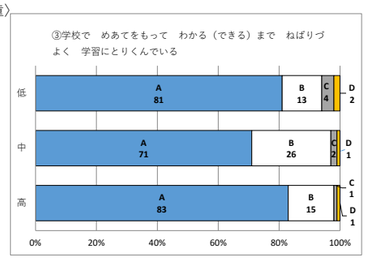


〈教職員〉



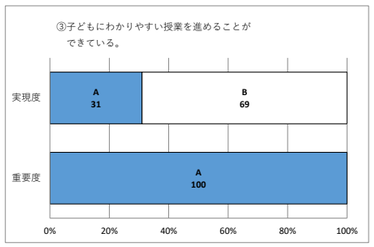
【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】

〈児童〉



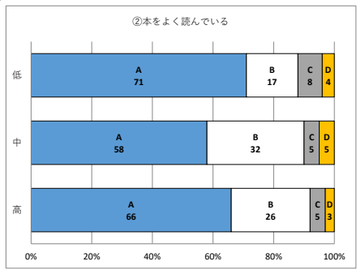


〈教職員〉

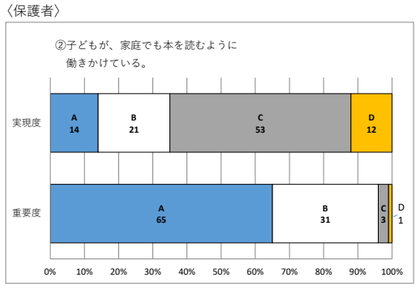


【読書の習慣】

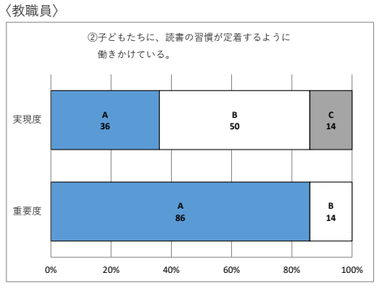
〈児童〉



〈保護者〉



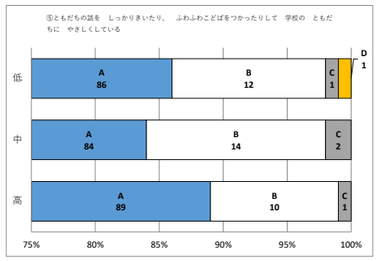
〈教職員〉



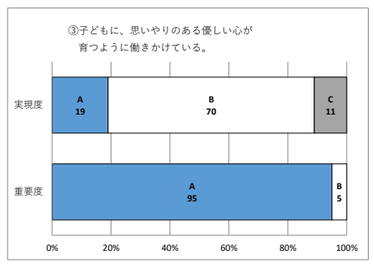
2　豊かな心

【思いやりのあるやさしい心】

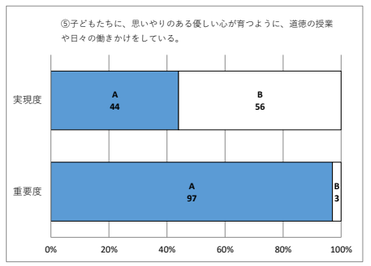
〈児童〉



〈保護者〉

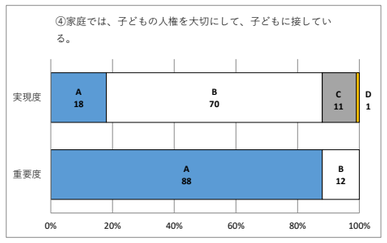


〈教職員〉



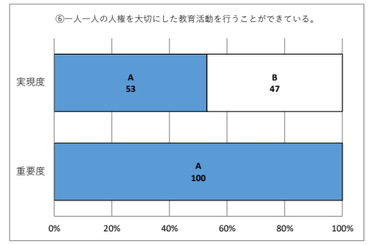
【人権を大切にした教育】

〈保護者〉



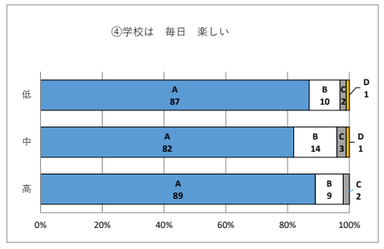


〈教職員〉

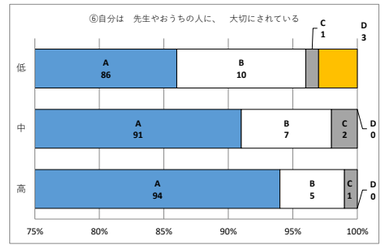


【楽しい学校生活】

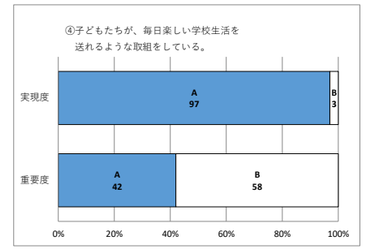
〈児童〉



〈児童〉

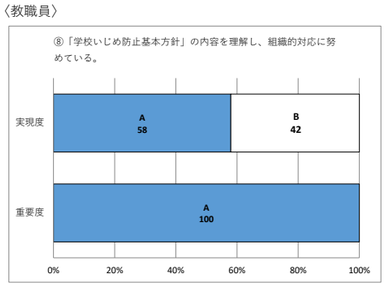


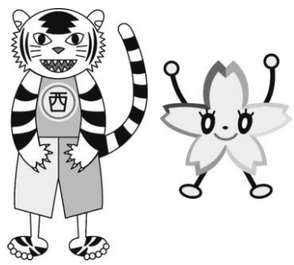
〈教職員〉



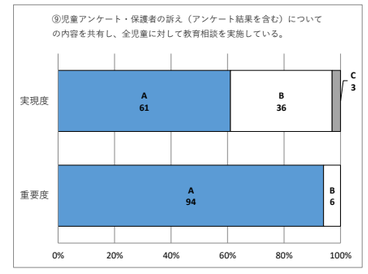
【いじめ防止のための取組】

〈教職員〉





〈教職員〉



【家庭での自主学習】【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】【読書の習慣】

家庭学習の習慣化、主体的な学びの育成、分かりやすい授業づくり、読書習慣の定着は保護者、教職員ともに、いずれも重要な課題として認識していることが分かりました。また、多くの児童が家庭で宿題や自主学習に取り組み、学校でもめあてをもって粘り強く学習していると感じています。しかし、保護者アンケートでは、家庭学習の習慣づけや主体的な学習態度の育成、家庭での読書習慣づくりについて、その重要性を認識しながらも十分に実践できていないと感じている割合が高くなっています。一方、教職員は読書習慣の定着や分かりやすい授業づくりに向けた取組について一定の成果を実感しているという結果となりました。

これらの結果から、読書や家庭学習の習慣については、学校での学びを家庭での取組へとつなげ、継続していくことができるよう、さらなる工夫が必要であることが分かりました。今後は、図書委員会を中心に読書週間の取組を充実させるとともに、その取組が児童の日常的な読書活動につながるよう工夫していきます。また、朝読書の時間には、図書ボランティアの皆様による読み聞かせが行われており、児童にとって楽しみな時間となっています。今後も学校司書や図書ボランティアの皆様と連携しながら、読書の楽しさに触れる機会を充実させ、読書習慣の定着を図っていきます。家庭学習については、学年の発達段階や学習内容に応じた具体的な取組例を発信し、授業と関連付けた課題や自主的に取り組める学習を取り入れることで、児童が主体的に学び続けられる環境づくりを進めていきます。

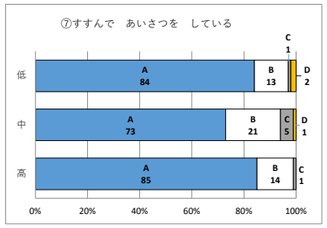
【思いやりのやさしい心】【人権を大切にした教育】【楽しい学校生活】【いじめ防止のための取組】

本校では人権尊重を基盤とした教育活動が学校･家庭の双方で推進され、その成果が児童の姿として表れていることが分かります。児童アンケートでは、「友達にやさしくしている」と回答した児童が全ての層で9割を超え、思いやりのある言動や温かな人間関係が育まれていることがうかがえます。また、「学校は毎日楽しい」「先生やおうちの人に大切にされている」と感じている児童も非常に多く、安心感や自己肯定感をもって学校生活を送っていることが分かります。しかし、そのように感じていない児童もいるということを認識し、子ども一人一人を徹底的に大切にした取組をより一層意識して続けていきます。保護者は、思いやりの心の育成や子どもの人権を尊重した関わりを重要視しており、多くの家庭で実践されています。教職員も、一人一人の人権を大切にした教育活動や道徳教育、楽しい学校づくりを重視し、継続的な働きかけを行っています。さらに、「学校いじめ防止基本方針」に基づく組織的な対応や、児童アンケートや教育相談を活用した児童理解にも積極的に取り組んでおり、いじめの未然防止や早期発見･早期対応に向けた体制を整えているところです。

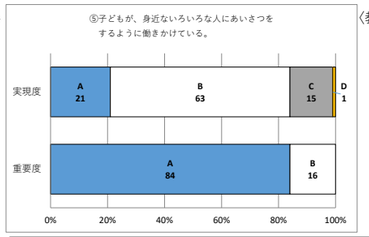
今後も、学校と家庭が連携しながら、一人一人の思いや願いに寄り添った支援を充実させるとともに、人権尊重の視点に立った教育活動や教育相談の充実を図り、互いを認め合い安心して学校生活を送ることのできる学校づくりをさらに推進していきたいと思います。

【あいさつをする】

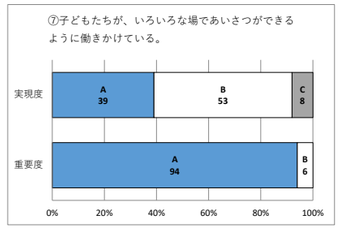
〈児童〉



〈保護者〉

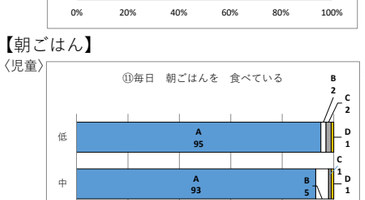


〈教職員〉



【規則を守る】

〈児童〉



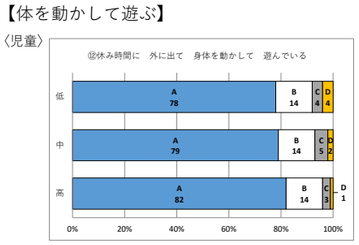
【あいさつをする】【規則を守る】

児童のあいさつや規範意識はおおむね良好な状況にあり、「すすんであいさつをしている」「学校のきまりを守って生活している」の両項目で、全ての層で9割以上の児童が肯定的に回答しました。保護者や教職員もあいさつの大切さを認識し、継続した働きかけを行っていることから、望ましい生活習慣や規範意識の形成につながっていることがうかがえます。一方で、地域の方々へのあいさつなど、主体的な実践には個人差も見られます。今後も、あいさつやきまりを守ることの意義を理解し、自ら考えて行動できる力を育むとともに、学校・家庭・地域が連携しながら、互いを尊重し安心して生活できる学校づくりを推進していきます。

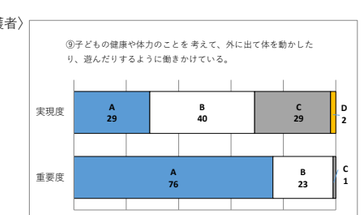
3　健やかな体

【安全に気を付ける】

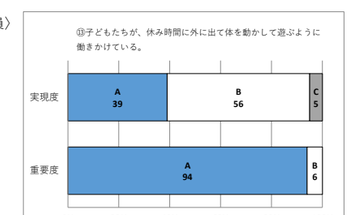
〈児童〉



〈保護者〉



〈教職員〉

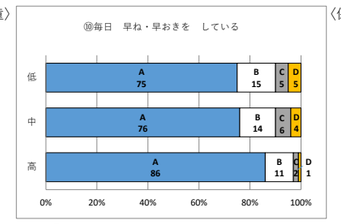


【安全に気を付ける】

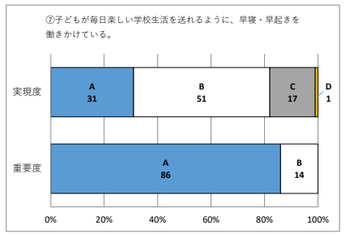
児童の安全意識は全体として高く、多くの児童が交通ルールを守り、安全に気を付けて行動していることが分かりました。また、保護者アンケートからも、安全について家庭で話題にしたりルールづくりを行ったりしている様子がうかがえ、学校と家庭が連携して安全教育を進めていることが分かります。さらに、安全ボランティアの方々による日々の見守り活動も、児童の安全確保に大きく役立っています。一方で、下校時に道路を走ったり、とび出したり、友達と遊びながら帰ったりする姿も見られます。今後も、学校・家庭・地域が連携し継続的な見守りと指導を行い、児童の安全意識の向上に努めていくことが重要であると考えます。

【早寝・早起き】

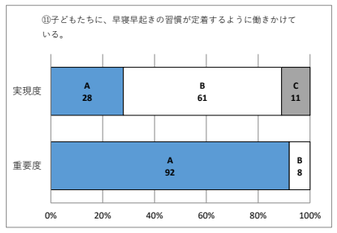
〈児童〉



〈保護者〉



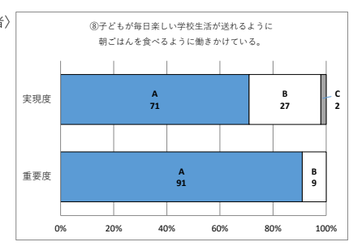
〈教職員〉



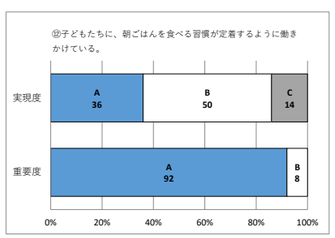
【朝ごはん】

〈児童〉

〈保護者〉



〈教職員〉



【体を動かして遊ぶ】

〈児童〉

〈保護者〉

〈教職員〉

【早寝・早起き・朝ごはん】【休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる】

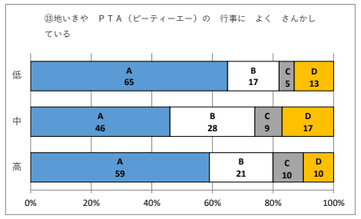
基本的な生活習慣についてはおおむね定着しています。朝ごはんについては、多くの児童が毎日食べていると回答していますが、一部には摂れていない児童も見られます。その背景には、痩身願望、また、宿題や習い事、テレビやゲーム、タブレットなどの利用により就寝時刻が遅くなり、早起きができていないことが影響していると考えられます。学校では、保健だよりによる啓発や体育科の保健学習、養護教諭や栄養教諭による指導、「生活見直し週間」の取組などを通して、規則正しい生活習慣や健康への意識を高めています。また、情報モラル教育にも取り組み、メディアとの適切な関わり方について指導を行っています。一方、外遊びについては、多くの児童が休み時間や放課後に元気よく体を動かしていますが、学年や個人による差も見られます。学校では「ジャンプアップ週間」などを活用しながら体力向上をめざした取組を進めています。

今後も家庭と連携し、生活リズムの改善や運動習慣の定着を図ることで、児童が心身ともに健康で充実した学校生活を送ることができるよう支援していきたいと考えています。

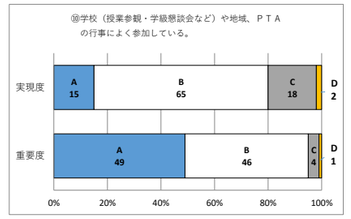
4　その他

【地域・ＰＴＡ行事への参加】

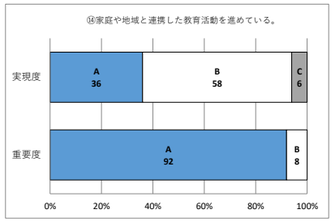
〈児童〉



〈保護者〉

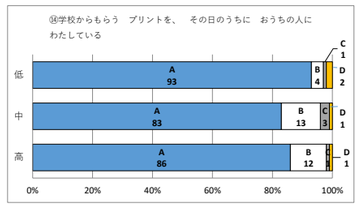


〈教職員〉

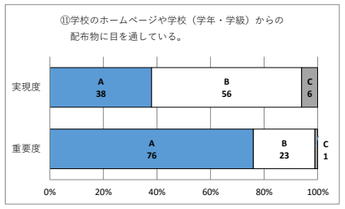


【学校・家庭・地域の連携】

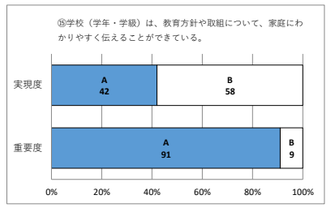
〈児童〉



〈保護者〉



〈教職員〉



【地域・PTA行事への参加】

学校と家庭との情報共有はおおむね良好に行われていることが分かりました。児童アンケートでは、「学校からもらうプリントをその日のうちに家の人に渡している」と回答した児童が全ての層で9割以上を占めており、児童を介しての学校から家庭への情報伝達が機能していることがうかがえます。また、保護者アンケートでは、学校ホームページや配付物に目を通すことの重要性が高く認識されており、実現度についても肯定的な回答が多く見られました。

学校が発信する情報をより確実に家庭へ届けるために、今後も、学校だよりや学年・学級通信、ホームページや保護者連絡ツール「すぐーる」を通して教育活動や児童の様子を分かりやすく発信するとともに、保護者との相互理解を深めながら連携を強化していきます。学校と家庭が同じ方向性を共有し、協力して児童の成長を支えていくことができるよう、より分かりやすく丁寧な情報発信に努めていきたいと考えています。

◆学校評価委員会の皆様のご意見

・児童が「学校が楽しい」と感じながら安心して学校生活を送ることが何より大切である。
・「宿題ができていないから学校に行きたくない」といった小さなつまずきが不登校のきっかけとなることがあると聞いたことがある。一つの要因だけではなく様々な要因が重なることで学校に来にくくなることがある。児童一人一人の状況に応じた丁寧な支援が大切である。
・登下校時に元気よくあいさつをしてくれる児童がいてうれしい。
・あいさつについては、こちらからの声かけに十分な反応が見られない児童もいるため、児童の気持ちに寄り添いながら、一人一人に応じた声かけや関わりを継続しているところである。
・遊びながら下校したり、通学路の白線から外れて歩いたりしている児童を見かけることがあるため、安全面が心配である。

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信＠京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどのようなことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。